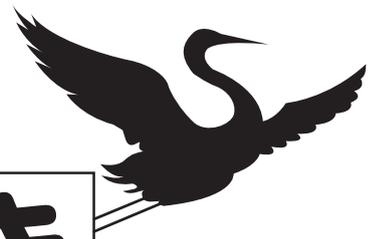


パパ大豆の

子育て大好き



トト新聞

11月号

こんにちは、11月は「七五三」ですね！

昔は数え年で行っていましたが、現在では満年齢で行うところもあるようです。

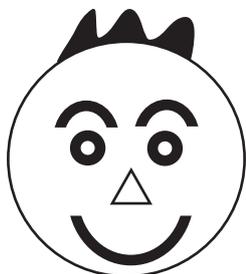
お子さんの成長を祝う大事な行事なので、パパさんママさんも気合がはいりますよね！！
袴姿の男の子、着物姿の女の子・・・特に女の子はお化粧もするので、記念写真に動画と大忙しですね(笑)

千歳飴は親が子に長寿の願いをこめて、細く長くなっているんだそうです。

入れてある袋も縁起の良い図案で、持っている子を見かけただけで縁起が良さそうですね(笑)
こういう行事のときに、お子さんの成長の早さを感じますね。月日が経つのは早いなあ 

MENU

- ★ 「心が壊れてしまう子」
～大切なのはありのままを認めてあげること～
- ★ 【育児お役立ちコラム】パパ大豆の「ネクタイとっておんぶひも」
～「一人っ子の時間」を与える～
- ★ パパ大豆の子育て豆知識
～論理性を育む叱り方～
- ★ 子育て雑感
〈モンテッソーリ:無干渉の法則〉
- ★ 「楽しむ子育て」を始めた方たちからの声
～たくさんいただく「うれしいお声」のほんの一部をご紹介!～
- ◎ 「楽しむ子育て広場」「トイフォーベビー」のご利用案内
～赤ちゃんに「旬のおもちゃ」を与えたいと思ったら……～



パパ大豆の「子育てひとこと語録」

「一番を期待する」ことはやめる！
なんでもいい！わが子の「一番」を
見つけてあげられる親になりたい。

パパ大豆

■育児大好きワイワイ新聞 発行の主旨

「育児が楽しい」と思える気持ちを、多くの育児にたずさわる人たちと共有できたら、もっと育児が楽しくないと思いますか？

「わたしの子育て、これでいいのかしら？」といった悩みや不安を誰かに話し、「そういうの、あるある」と共感してもらえただけで気持ちが少し楽になる・・・なんてことはないですか？「育児大好きワイワイ新聞」は、今よりもっともっと育児を楽しんで、育児を大好きになってもらうために、発行していきます。なので、読者のみなさまも、どしどし「お声」をくださいね！育児の中でうれしかったこと、悩んでいること、ご意見、ご感想なんでもけっこうです。その「みなさまからの声」を、今後の編集に生かしていこうと思っています。

【心が壊れてしまう子】

こんにちは、パパ大豆こと廣島です。

今日は、ちょっと重く、苦しいテーマですが、「心が壊れてしまう子」について考えました。

最近、ボクのまわりや、知り合った人のまわりでよく「うつ病」の話を聞きます。

例えば、ボクの妻は高校の教師をしているのですが、妻の高校の生徒に「うつ病」の生徒がいます。

また、最近ご縁のあった大学教授も、教え子に、うつ病の学生がいて、心配しておられました。ボク自身の知り合いにも、そういう子がいます。

話を聞いてみると、特に若い世代で「うつ」の症状を抱える子(あえて「子」と呼んでいます)に共通点があることに気づきます。それは、ボクが知る限り、みんな「家庭」に恵まれていない側面をかかえているのです。

その問題は、経済的なことではなくて、むしろ「親子関係」にあるようです。

妻の生徒、大学教授のゼミ生、ボクの知り合い、偶然にもみな女性ですが、彼女たちの家族背景を聞いてみると、共通して「親子関係」にひずみを感じます。

特に「社会性の象徴である父親」との関係に、大きなひずみを抱えているようです。

その「ひずみ」とは、何かというと、「ありのままを認めてもらうことなく、本来の自分を隠して、親の要求する自分を演じている」ことです。このように書いてしまうと、誰もそのような一面はあるように思いますが、それが、ある一線を越えてしまうと、心が壊れてしまいます。そうした場合に、やっかいなのは、親の目には、子どもは、自分が思うような人格を演じているため、心の中のSOSに全く気がつかないことです。

それどころか、病的な症状が現れても、まだ子どもを認めることが出来ずに、自分の思うような行動をとらせようとするのです。

例えば、妻の生徒の場合は、学校に出るのが辛いので、高校を退学して気持ちを落ち着けたいと本人は希望して、お母さんとの面談の段階では、3者がそのように理解して前向きになったところへ、最後にお父さんが出てきて「何が何でも高校だけは卒業させますので、よろしく願います」と言ってきたそうです。

高校をやめるやめないは別にしても、これではその生徒が、「ありのままを認めてもらう」ことは、ありません。

でも、この父親が、子どものことを考えない非情な親かということ、むしろ逆で、子どもの事を本当に愛していて、気にかけている親のはずです。それなのに、子どもも親も辛い状況になってしまうのはなぜか？

その答えは、幼少期の子どもとの関わり方にカギがあります。

こうしたケースは、実際の「うつ」という形になって現れるのは高校生だったり、20代前半だったりします。

でも、心理学的につきつめると、幼少期のトラウマにまで行き着きます。年齢で言うと、本人が記憶をたどれる範囲では「7~9歳」、そして、深層心理にしまわれたところまでさかのぼれば、「0~3歳における原体験」にまでさかのぼる事ができます。この頃に受けたトラウマによる「ひずみ」が蓄積して、思春期を過ぎた頃に表面化するという構造です。

そのトラウマこそが、「ありのままを認められなかった」ことによって、親が描く子どもを演じないと愛してもらえない、と子どもに思わせてしまった結果生れるものです。

こんな風に、トラウマを抱えて大きくなった若者は、近年、非常に多いように思います。

中には、心が壊れてしまう子もいれば、どうにかバランスをとっていく子もいる。「うつ病」にまでなってしまう子は、むしろ少数のはずにも関わらず、まわりには、ボクのまわりだけでも3人も心が壊れた子がいるというのは、実に憂うべき現状のように思えます。というのも、最悪のケースでは、心が壊れてしまった子は、最終的に自らの手によって死を選ぶことがあるのです。

ここに書いていることは、統計に基づいているわけではなく、あくまでボクの実感と経験則、知識に基づくものですが、少なくとも突拍子もないことではなく、ある程度現実を反映していると思います。

こうした現状を直視しながら、ぼくは、家庭でも仕事でも「子育て」に関わっていこうと思います。

【育児お役立ちコラム】 パパ大豆の「ネクタイとっておんぶひも」

このコラムは、パパ大豆の育児日記「ネクタイとっておんぶひも」の過去のトピックからピックアップしてお届けしています。

<「一人っ子の時間」を与える>

きのう、子どもたちが寝た後、妻と、子どものことや仕事のこと、将来のことなんかを話しました。こういう時間が日常的に持てるようになると、とっても理想的なんだけど、現状は、やっぱり「子ども中心」の生活をせざるを得ないので、しょっちゅうってわけにはいかないですね。それでも、できる限り、子どもたちが寝た後、いろんなことを話せる時間を持ちたいなあ、と感じました。そんなわけで、昨日いろいろ話をした中のひとつに「ソラのこと」があります。

「ソラは、ルカほどに母親を求めている」と妻はいいます。ソラが「ママ～、ママ～」って言うのは、ルカへの対抗心からということが大きいんじゃないか、と。言われてみると、そういう場面がたくさん浮かびます。ルカが「ママ、だっこお～」と言ったとします。すると、ソラも同じように「ママ、だっこお～」と言います。2人同時に抱っこは出来ません。そんな時、ルカは「てこ」でも意志を曲げません。何が何でもママなんです。かたや、ソラは「パパなら高い高いだっこしてもらえるよ～」と目先を変えてやると、すぐに「パパだっこ～」となります。こんな調子で、ルカとソラで「ママの取り合い」になったときは、たいていソラの方が何かの代替案で手を打ってくれます。たいてい、パパであることが多いです。

そこで、最初の妻の投げかけ。「ソラは、ルカほどに母親を求めている」。これが、妻の言うとおり、ルカほどにママにこだわっていないのか、それとも「あきらめ」が働いているのか。そんなことがすごく気がかりになりました。

確かにルカとソラのキャラクターを考えると、前者でうなずけます。

ルカは、シアーズ博士言うところの「感受性の強い子」の典型で、その分「こだわり」が強かったり、「気持ちの切り替え」が出来なかつたりします。対してソラは、「こだわり」は少なく、何よりも「気持ちの切り替え」が早いんです。

でも、そんな「切り替えの早い」ソラのキャラクターに、ボクも妻も甘えすぎていることはないだろうか？「場を収めるため」とは言え、いつもルカの言い分が通って、ソラは、目先を変えられている、それによって、ソラに「あきらめ」のような気持ちが生まれていることはないだろうか？

この懸念に対する明確な答えは、出ないでしょう。ただ、言えることは、すべての要因が絡み合っているという現状です。切り替えの早いソラは、ルカへの対抗心でママにだっこをせがんだけど、パパの高い高いだっこもよさそうなので、そっちで手を打った。でもどこかで「どうせルカちゃんの言い分がおっちゃんでしょ」とも、思ってるかもしれない。

そして、妻と出した一つの案があります。「ソラとママの日」を作ることです。

もっといえば「ソラの一人っ子の日」の方が良さそうです。以前にもやったことがあります。ルカをおばあちゃんのうちへ連れていて、夕方まで見てもらうんです。そして、パパとママとソラの3人で過ごす。単発では、意味がないので、定期的に、週1回は無理かもしれないけど、月1回くらいは、そんな日を設けてみるのもいいかな、と思いました。

ソラの年齢の頃、ルカは一人っ子だったんです。パパとママとルカの3人の時間を4年弱過ごしてきました。

そういう「一人っ子」の感覚を、たとえ一時的でも、ソラに味あわせてやりたい。

パパの注目も、ママの注目も、すべて自分だけに注がれて過ごす時間。そんな時間をもつことで、ソラの中にある「満たされない気持ち」が(あるのかどうかもわからないけど)満たされればいいなあ、と思います。

【パパ大豆の、子育て豆知識】

<論理性を育む叱り方>

きょうは、こんな一節をご紹介します。

子どもを叱るときには、きちんと叱ることが大切です。

叱っているのか、説得しているのかわからないような、中途半端な叱り方はかえって子どもを混乱させます。

「そんなことをしちやいけません、お願いだからママの言うことを聞いてちょうだい」これは、

めいれいしているのでしょうか。それともお願いしているのでしょうか。

こういう言い方をされると、こどもはまだやっても大丈夫だなと、おもってしまいます。

子どもも、理由も聞かされずにただ「いけない」と言われるだけでは、納得がいかないはずで

それに、理由も告げられずにいろいろなことを禁止されると、論理的に道筋を立てて物事を考えようとする意欲がなくなってしまいます。言われたことを言われたようにやればいいと、思うようになってしまうのです。

叱るなら叱る。

説得するなら説得する。

ちゃんと分けて子どもに接しないと、こどもの論理性は育ちません。そればかりでなく、

無気力で言われたことしか出来ない消極的な人間、いわゆる指示待ち人間になってしまう危険性さえあるのです。

多湖 輝 著「楽しく育てれば 賢い子が育つ」より

パパ大豆としては、3歳になる以前の乳幼児期には、こうしたことは関係ないと思っています。

「叱る」必要も「説得する」必要もないと思っているからです。

身の危険がせまるようなことや、著しく他人に迷惑になるようなことについてのみ、禁止すればいいと思っています。

その他のことについては、3歳以下の子を説得したり、叱ったりしないようにしています。

わが家で言うと、ちょうど、上の娘ルカ(小学校一年生)に対しては、今日の一節をかみしめないといけないなあ、

と思いました。逆に下の娘ソラ(2歳)に関しては、まだ早い。この辺のバランスは、非常に難しいところですよ。

ルカくらいになると、「なんでルカはダメでソラちゃんはいいの?」なんて場面は、たくさんありますから。

そんなとき「お姉ちゃんなんだから」などと言っては、身もふたもありませんね。

ルカを子ども扱いせず、何でも、大人に説明するのと同じように、きちんと理由を言って聞かせるように

しなくてはいけないと、改めて思いました。これって、意識してないと、意外と出来ないもんなんですよ。

つい「いいから言うことを聞きなさい」とか「いい加減にしなさい」とか、訳の分からない言い方をしてしまいます。

子どもが「やかましいから、言うことを聞いておいた方がラク」と思ってしまうような対応は、絶対に避けたいですね。

そのためには、親の我々が、「なんで」や「じゃあどうすればいいか」をしっかりと整理して、子どもを説得するなり、

叱るなりすることが大切ですね。

それと、もし、お子さんが3歳にまだならない子なら、まずは叱らないで、その場を切り抜けることを考えて欲しいと

思います。叱る代わりに、「気を他にそらす」という方法でかなりのことには、対処できます。

なぜかという、発達上の問題で、3歳前のこどもには「論理性」が完全には、身に付いていないからです。

だから、いくら理想的な叱り方や説得をしたとしても、3歳前の子どもの心には響かないんです。

叱られた、というイヤな気持ちだけが残ってしまいます。

パパ大豆のうちは、6歳のルカと2歳のソラ、分けて考えてあげる必要があるみたいです。

でも、あんまりきっち分けてしまうのは、「不公平」にも映りかねないので、やっぱりバランスが必要なんですよ。

【子育て雑感】

<モンテッソーリ:「無干渉の法則」>

かの有名なモンテッソーリが教師のあり方について述べたこんな一節があります。

教師は、子どもたちが自分自身で活動できるように準備するだけで、背景に引きさがるべきであるということが、ますます経験から明らかになってきます。

私たちの仕事は、干渉は不必要なものであり、有害でさえあることを教師に納得させることです。わたしたちはこれを『無干渉の法則』と呼んでいます。

教師は苦心して主人の飲み物を用意しておいてから、かれが随意飲めるようそれを残して去る召使のように、何が必要とされているかを判断しなければなりません。

教師は、ひかえめになることを学ばなければなりません。つまり世話をする場合に、子どもたちに自分を押し付けるのではなく、たえず気を配って、その進歩に従い、かれが次の活動のために必要としているらしいものを、残らず準備しなければならないのです。

M.モンテッソーリ著 「モンテッソーリの教育」より

これは、3歳の子どものことについて書かれた章のなかの一節です。ですので、ここでいう教師というのは、保育士のことですね。この本は、内容的には「親」というよりも「教師」に向けて書いてあるんですが、もちろん親として読んでみても、とっても参考になります。

この「無干渉の法則」などは、3歳くらいの年齢に達した子どもと時間を過ごすのに、とっても大事なことだと思います。結局、平たく言ってしまうと、子どもの発達段階を見極めながら、必要であろうアクティビティができる環境を与えて、あとは放っておく、干渉しないってことなんですね。

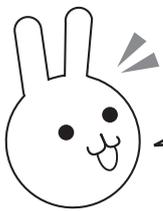
これは、3歳という幼児への扉を開けた子どもには、とっても重要なことじゃないかと思います。それまでの乳児期というのは、「遊び」に親が積極的に参加して、「対話」を生むということが求められていたのですが、3歳という年齢に達すると、こんどは、「自分で」成し遂げる、探求する、発見する、といったことが重要になってくるように思います。

かといって、3歳の子どものが、自ら筋道をたてて、自分の欲求に従って、準備から実行、検証までやってのけるはずはないんですね。だから、親や保育者が、子どもの発達段階や興味の対象を把握して上げて、その道筋を用意しておく必要があるわけです。

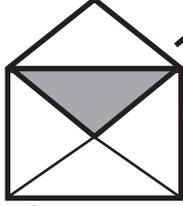
あとは、それを子どもがどのようにしようと、放っておくことが大切です。つつい親や保育者は、自分が描いた筋道(遊び方)を通ってもらおうと、子どもを誘導しようとして(ボク自身がそうです)でも、そこを「グッ」とこらえて『無干渉の法則』を貫くことが大事ですね。

モンテッソーリというと、「教具」と呼ばれるおもちゃがクローズアップされがちですが、親として大いに参考になるのは、モンテッソーリのこうした「教育理念」だったり、「発達段階ごとに述べられた特徴と教育方針」といったソフト面にあるとパパ大豆は思います。「教具」を使えばいいってもんじゃないくて、むしろ大事なのは、こうした「考え方」じゃないかと思います。

そして、その根本で言っていることは、佐々木正美先生やシアーズ博士、ゲゼル博士、などといった専門家の言っていることとも、時代を超えて共通しているなあとと思います。



「楽しむ子育て」を始めた方たちからの声
 ~たくさんいただく「うれしいお声」のほんの一部をご紹介します!~



布絵本

ジャングルでいないないばあ~



本日、無事にセット商品が届きました。

6日に3ヶ月になったばかりですので自分から手を出すまでに至りませんが、音には反応しますので、先ほど昼休みに絵本を広げお腹を押すページで音を出したらニコニコしていました。

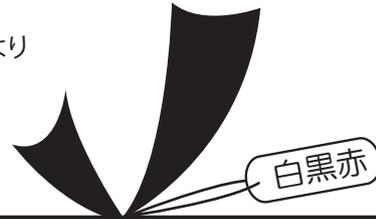
早くボーリングや着せ替えも出来るようになるのが楽しみです ^ ^

また機会がございましたらよろしく願い致します。 匿名希望様より

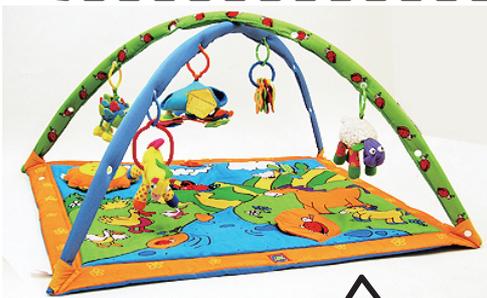
子供(10ヶ月・男子)もとても気に入って、
 がりがり、くしゃくしゃしております。

とても満足しています。

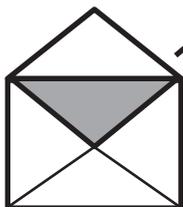
ありがとうございました。 匿名希望様より



白黒赤



メロディ メーカー



ジム

ていねいな包装で、とてもこちら側へはうれしく
 感じました
 体験セット、早速子供に見せて、反応はくりくり
 生後6ヶ月なので、もともと絵本やおもちゃに
 出会ったのはじめて感じました
 あーうー... 見るとすぐ声を出し出し、じーん
 貝入ってる事、ほんとに、すご。
 お父さんも、積極的に絵本を見せてあげたいです
 父親にと、やはり遊びの楽しみ方、2人からないん
 ですけど、これを買って、お父さんもうれしくな
 ったから、楽しく子育てできるとも、期待してます。
 ありがとうございました。

孫の為に購入しました。

とってもカラフルで、多機能、しかもかわいい!

いろんな興味をそそるアイテムがあり、楽しさいっぱいです。

五ヶ月になる孫も気に入ってくれたようです。

娘に、何か興味のわくようなおもちゃはないかな?と相談され色々探していました。

このプレイジムにして良かったと思います(^ ^)もちろん娘も大変喜んでます。

匿名希望様より

「発達と遊びのセット」をお願いした、札幌市のN.Mです。

我が家の3ヶ月の娘が、ジムにはまっています。

まだ手が自由になりませんが、カシャカシャ鳴る部分をずっと握りしめて、

ぶら下がったおもちゃをじっと眺めています。

そばにいて見守って声をかけてやるとニコニコするので親も嬉しいです。

叩くと音が鳴るボードも興味深げですが、鳴る音がかにもアメリカンですね(苦笑)

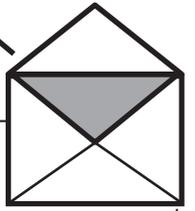
手でおもちゃをいじれるようになるともっと楽しんでくれそうです。

この後の展開が楽しみです。

ありがとうございました。

N.M様より

おもちゃ



ベビーカーにチャイルドシート。家ではバウンサーにハイローラック。どこにでもクリップで付けられて代活躍です！クリップは硬くて付けるのに苦労しますが、その分落ちることなく付いてくれます。角度が変えられるのもいいです。ちょっと叩いただけでメロディが流れるのもお気に入りです♪買ってよかったです。

匿名希望様より

今はバウンサーにつけて遊ばせています。ミラーのついたカエルさんがお気に入りのようです。

K a 86様より

(TINY LOVEミュージカル・テイク アロング アーチをご購入された方から頂いたコメントです。)

先日は何をプレゼントしてよいか悩んでいました・・・

御社様の事は以前新聞に載っていたアドレスをチェックしていましたのでそれを思い出し今回利用させて頂きました。

“落書きハウス”はめちゃめちゃ好評で喜んで頂けたようで、組み立てた日には早速に写メを送って来てくれました。

子供達の満面の笑みが最高でした・・・また困った時には助けて下さいね。

有難うございました・・・

S.W様より

お世話になっております。先日まで注文をさせていただきました〇〇と申します。

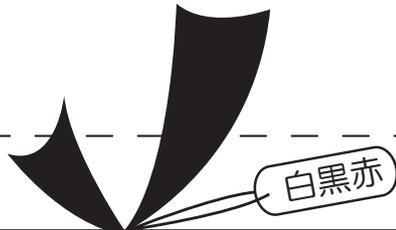
お送りいただきました商品は、無事に孫の手の中へ。2歳の誕生日プレゼントとして贈られました。

贈られた本人もすっかり気に入り、毎日「つみき!つみき!」と言って、「積み上げては壊し」の繰り返しを飽きることなく

遊んでいます。また、同封されていたお片づけ用の布袋にちゃんと片づけてくれたりと親にとっては子供の成長を感じることもでき、大変喜んでおります。いろいろとありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

匿名希望様より

(BOIKIDO マイファーストブロックを
ご購入された方から頂いたコメントです。)



白黒赤

「発達と遊びのセット」届きました!

早速、わが子(生後1ヶ月の女の子)に絵本を見せてみました。最初は訳もわからずただ眺めているように思えたのに、最近は何だか興味津々のご様子。

一番のお気に入りは、右端にある星の図形のようなです。この絵をジッと見つめ、手足をバタバタさせ「アー、ウー」毎日語っています。

たまに眉間にシワを寄せて絵を見えています。

何か考えているのでしょうか?

そんな訳で、ベビーベッドには絶えず絵本を置いています。

私の語り掛け次第で、もっと豊かに反応してくれるのでしょうかね。

とっても楽しみです。

また嬉しい発見があったらメールします。

ありがとうございました!

まだポスターを上手に使えないミルクマン様より



アニマルスタッキング

『世界の赤ちゃんおもちゃトイフォーベビー』 ご利用案内

赤ちゃんに「旬のおもちゃ」を与えたいと思ったら…

トイフォーベビーで、あなたの赤ちゃんの発達ステージにピッタリ合った「旬のおもちゃ」がきっとみつかります

■ STEP1 まずは商品を品定め!お子さんの月齢に合ったおもちゃを見つけよう!

<http://www.toy4baby.com/>

上のURLをブラウザ(インターネット・エクスプローラーなど)に入力してください。

もし、おもちゃの選び方で迷ったら、いつでも気軽にご連絡ください!

・お電話なら…フリーダイヤル: **0120-1141922(い~よ、いくじに)**

■ STEP2 赤ちゃんにピッタリのおもちゃがみつかったら、早速注文!

インターネットでご注文

ご希望の商品の商品ページの「買い物カゴに入れる」のボタンを押すと、買い物カゴに商品が入ります。さらに買いものを続ける場合は、「買いものを続ける」ボタンを押すと、先ほどの商品のページに戻りますので、続けてほかの商品を買いものしてください。

ご希望の商品がすべて買い物カゴに入りましたら、「次へ」のボタンを押して、購入情報を入力してゆきます。最後に内容を確認して、「この内容で注文する」のボタンを押せば、注文完了です。



注文後すぐに、自動返信メールにて、ご注文内容の控えをお送りしております。その翌営業日(土日除く)に、当店サポートスタッフより、ご注文確認と発送予定をお知らせします。

FAX、Eメールでご注文

FAXフリーダイヤル : **0120-220-960** (通話料無料)

Eメール : **order@deez.co.jp**

FAXの場合お好きな用紙に下記の項目をご記入のうえ、上の番号にFAXしてください!

Eメールの場合、下記の項目を本文に書いていただいて

①名前 ②電話番号 ③商品番号・商品名・数量 ④お支払方法(代引き・クレジットカード・前払い銀行振込、郵便振替) ⑤ご注文者様住所・お届け先が別の場合お届け先住所と電話番号 ⑥宅配会社のお届け指定のご希望

電話でご注文

フリーダイヤル : **0120-141922(い~よ、育児に)** (通話料無料)

お気軽に、質問しながら注文してください。おもちゃについてわからない事や疑問を解決しながら、商品をお選びいただけます!

■ STEP3

おもちゃが届いたら、その日から、いっぱい遊んで赤ちゃんと一緒に楽しい時間を過ごしてください!

発行

株式会社ハッピーチャイルド 愛知県名古屋市中区金山2-15-14 パックス金山4階

Copyright Happy Child Co., Ltd. All Right reserved